



大関を知る!  
の巻

18

# DOS KOTI

MAGAZINE





199X年、角界は引退の波に包まれた!!

あらゆる横綱は引退したかに見えた…  
だが… 大関は死に絶えてはいなかった!!



琴欧洲

琴光喜

武双山

雅山

魁皇

千代大海

**199X年、角界は引退の波に包まれた!!**



あらゆる横綱は引退したかに見えた…

だが… 大関は死に絶えてはいなかった!!

# 目録 歴代12大関解説 (簡単)

最有力大関候補くん♡ 高安昇昇昇内：稀勢の里と同期歴でおとつと弟子。今場所は太閤取りの場所

はみだし大関候補くん♡ 薬はれんが待ってるン！ 正代・御嶽海・玉鷲？・小柳改め豊山？・貴源治？



**小錦 八十吉**  
こにしき やそきち  
大関在位 39場所

幕内優勝 3回 生涯成績 733勝498敗  
高見山に勧誘され恵まれた体格でスピード出世。外国出身力士初の太閤。太閤時代は憎まれ役だったが、陥落後も戦い続ける姿から大人気。

222代



**霧島 一博**  
きりしま かずひろ  
大関在位 16場所

幕内優勝 1回 生涯成績 754勝696敗  
吊りの名手。イケメン&筋肉美で角界のアラウンドロンとかヘラクレスとか呼ばれ女性に大人気。太閤昇進は初土俵から91場所と史上1位のスロー記録。

224代



**貴ノ浪 貞博**  
たかのなみ さだひろ  
大関在位 37場所

幕内優勝 2回 生涯成績 777勝559敗  
日本人離れした体格と、強靱な足腰で懐も深くスケールの大きな相撲を得意とした。同期星の若貴兄弟とともに全盛期の二子山部屋を牽引。

228代



**千代大海 龍二**  
ちよたいかい りゅうじ  
大関在位 65場所

幕内優勝 3回 生涯成績 771勝528敗  
絵に描いたような不良少年が親孝行目的で角界入り。四つ相撲が主流の上位陣のなかで、前進&つっぱりラッシュの「電車道」が持ち味。

230代



**出島 武春**  
でじま たけはる  
大関在位 12場所

幕内優勝 1回 生涯成績 595勝495敗  
立合い強くぶちかまし前に出る「出る出る出島」が必殺技。安定した成績でケガにも負けず土俵を務めた。色白で鈴木その子から懸賞も出た。

231代



**武双山 正士**  
むそうやま まさし  
大関在位 27場所

幕内優勝 1回 生涯成績 554勝377敗  
父の教えで相撲を始める。正々堂々真っ向勝負を常とし、力士人生のなかで立合い変化は一度もなし。同世代の魁皇はライバルであり大親友。

232代



**雅山 哲士**  
みやびやま てつし  
大関在位 8場所

幕内優勝 0回 生涯成績 654勝582敗  
不気味な右肩のコブと溢れる才能でスピード出世。「20世紀最後の怪物」と呼ばれるも、太閤昇進後ケガに苦しめられわずか8場所で陥落。

233代



**魁皇 博之**  
かいおう ひろゆき  
大関在位 65場所

幕内優勝 5回 生涯成績 1047勝700敗  
すきっ歯がキュートな九州男児。特急列車にもその名が冠される人気者。史上最強の大関といわれ綱取りも4回あったが、成績に波があり叶わず。

234代



**橋本 大裕**  
とちあずま だいすけ  
大関在位 30場所

幕内優勝 3回 生涯成績 560勝317敗  
父のしこ名と技能を継承した平成の名大関。2度にわたる太閤復帰は史上唯一の記録。綱の期待も高かったが脳梗塞の危険性があり引退。

235代



**夢歐洲 勝紀**  
ことおしゅう かつのり  
大関在位 47場所

幕内優勝 1回 生涯成績 537勝337敗  
甘いマスクと笑顔がキュートなブルガリア男児。稽古を愛し、稽古に愛された男。素質は白鵬以上とも言われたが、ケガに泣かされた。

237代



**夢光喜 啓司**  
ことみつぎ けいじ  
大関在位 17場所

幕内優勝 1回 生涯成績 571勝367敗  
組んでも離れてもオールマイティ。31歳3ヶ月での太閤昇進は史上最年長。愛子さまの推し力士だったが、野球とばく問題の際に解雇された。

239代



**摺瑠都 凱斗**  
ばると かいと  
大関在位 15場所

幕内優勝 1回 生涯成績 431勝213敗  
すきっ歯がキュートなエストニア男児。豪快な取り口で観客を沸かせたが、それが同時にケガにもつながり引退。「北の富士賞」唯一の受賞者。

241代

# 刮目

# 歴代72

最有力大関候補くん♥

高安晃(幕内)……稀勢の里と同部屋でおとうと弟子。今場所は、大関取りの場所。



**小錦 八十吉**

こにしき やそきち  
大関在位 39場所

幕内優勝 3回 生涯成績 733勝498敗

高見山に勧誘され恵まれた体格でスピード出世。外国出身力士初の大関。大関時代は憎まれ役だったが、陥落後も戦い続ける姿から大人気に。

222代



**霧島 一博**

きりしま かずひろ  
大関在位 16場所

幕内優勝 1回 生涯成績 754勝696敗

吊りの名手。イケメン&筋肉美で角界のアラウンドロンとかヘラクレスとか呼ばれ女性に大人気。大関昇進は初土俵から91場所と史上1位のスロー記録。

224代



**貴ノ浪 貞博**

たかのなみ さだひろ  
大関在位 37場所

幕内優勝 2回 生涯成績 777勝559敗

日本人離れした体格と、強靱な足腰で懐も深くスケールの大きな相撲を得意とした。同部屋の若貴兄弟とともに全盛期の二子山部屋を牽引。

228代



**千代大海 龍二**

ちよたいかい りゅうじ  
大関在位 65場所

幕内優勝 3回 生涯成績 771勝528敗

絵に描いたような不良少年が親孝行目的で角界入り。四つ相撲が主流の上位陣のなかで、前進&つっぱりラッシュの「電車道」が持ち味。

230代



**出島 武春**

でじま たけはる  
大関在位 12場所

幕内優勝 1回 生涯成績 595勝495敗

立合い強くぶちかまし前に入る「出る出る出島」が必殺技。安定した成績でケガにも負けず土俵を務めた。色白で鈴木その子から懸賞も出た。

231代



**武双山 正士**

むそうやま まさし  
大関在位 27場所

幕内優勝 1回 生涯成績 554勝377敗

父の教えで相撲を始める。正々堂々真っ向勝負を常とし、力士人生のなかで立合い変化は一度もなし。同世代の魁皇はライバルであり大親友。

232代

# 大関解説 (簡単)



**雅山 哲士**

みやびやま てつし

大関在位 8場所

幕内優勝 0回

生涯成績 654勝582敗

不気味な右肩のコブと溢れる才能でスピード出世。「20世紀最後の怪物」と呼ばれるも、大関昇進後ケガに苦しめられわずか8場所で陥落。

233代



**魁皇 博之**

かいおう ひろゆき

大関在位 65場所

幕内優勝 5回

生涯成績 1047勝700敗

すきっ歯がキュートな九州男児。特急列車にもその名が冠される人気者。史上最強の大関といわれ綱取りも4回あったが、成績に波があり叶わず。

234代



**栃東 大裕**

とちあずま だいすけ

大関在位 30場所

幕内優勝 3回

生涯成績 560勝317敗

父のしこ名と技能を継承した平成の名大関。2度にわたる大関復帰は史上唯一の記録。綱の期待も高かったが脳梗塞の危険性があり引退。

235代



**琴欧州 勝紀**

ことおうしゅう かつのり

大関在位 47場所

幕内優勝 1回

生涯成績 537勝337敗

甘いマスクと笑顔がキュートなブルガリア男児。稽古を愛し、稽古に愛された男。素質は白鷗以上とも言われたが、ケガに泣かされ引退。

237代



**琴光喜 啓司**

ことみつぎ けいじ

大関在位 17場所

幕内優勝 1回

生涯成績 571勝367敗

組んでも離れてもオールマイティ。31歳3ヶ月での大関昇進は史上最年長。愛子さまの推し力士だったが、野球とばく問題の際に解雇された。

239代



**把瑠都 凱斗**

ばると かいと

大関在位 15場所

幕内優勝 1回

生涯成績 431勝213敗

すきっ歯がキュートなエストニア男児。豪快な取り口で観客を沸かせたが、それが同時にケガにもつながり引退。「北の富士賞」唯一の受賞者。

241代

はみだし大関候補くん♥

紫ばれんが待ってるゾ!

正代・御嶽海・玉鷲?・小柳改め豊山?・貴源治?

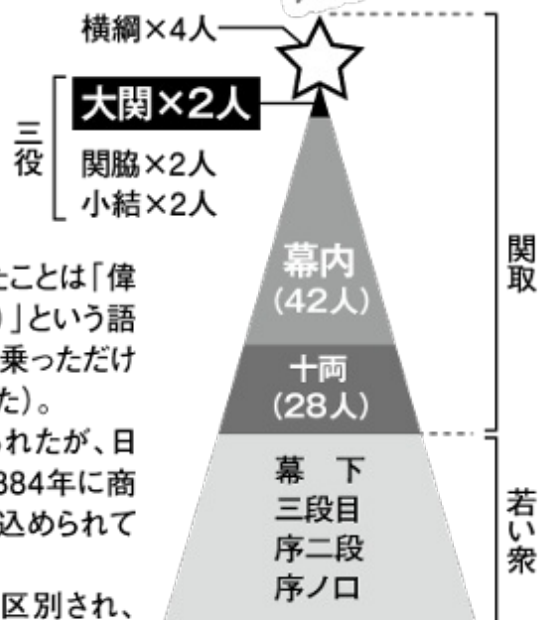
# 相撲人気完全復活！～そしておさらいへ～

平成12年以來となる四横綱時代が始まり、  
相撲人気もすっかり復活したのは皆さんご存知の通り。  
ここで一度、大関についてカル〜クおさらいをしておきましょう。  
なんで？ 横綱特集はやらないの？と思うことだろうが  
横綱特集はすでに14号でやっちゃったのだ。

The sumo hierarchy

## 「偉大」な「関取」、大関

現行制度では横綱に次ぐ階級だが、明治の半ば頃までは大関は番付の最高位だった。それ以前には階級としての横綱は存在せず、「横綱」とは例のしめ縄のことで、それを締めた大関に対する名誉称号を指していた。大関が別格の存在であったことは「偉大」な「関取」という意味の「大関取(おおぜきとり)」という語源にも表れている(ちなみに「関取」は江戸時代、名乗っただけで関所を通れるほど特別だったことから呼ばれ始めた)。横綱の階級は時代を経て1909年に正式に定められたが、日本酒のメーカーで知られる「大関」はそれより前の1884年に商標を登録。こちらの「大関」には最高品質の意味が込められており、ラベルには今も綱の意匠がほどこされている。現在の大関は三役の最上位だが関脇や小結とは区別され、相撲協会の顔としていろいろと特権も多い。



おなじみの力士ヒエラルキーの図だ。

## 大関の特権～大関にはお楽しみがいっぱい～

- 基本給の月収は約234万円(横綱は約280万円、関脇・小結は約170万円)
- 上記のほかにも各場所ごとに支給される力士褒賞金など、種々の手当金などあり
- 本場所で本人プロデュースの弁当が発売される
- 協会公式の移動では、飛行機はファーストクラス、鉄道はグリーン車が使える
- 国技館では地下にある駐車場へ車に乗ったまま直接場所入りできる
- 付け人の数が増える
- 馬れん(すそのふさふさ部分)が紫色の化粧廻しが使える(関脇以下は使っちゃダメ)
- 年寄名跡がなくても引退後3年間はしこ名のまま年寄として残ることができる
- 親方になると、テレビ中継では正面席で解説(関脇以下は向正面が多い)

ほかにもたくさんのお楽しみがあるよ！



## 大関への昇進

力士としてこの世(角界)に生を受けた若い衆は、序の口・序二段・三段目・幕下、十両・幕内(前頭)・三役(関脇・小結)と番付を駆け上っていく。そしていよいよ大関へ…

大関になるには三役(関脇・小結)の地位で**3場所連続通算勝ち星数が33以上**であることが最近の条件のようだ。語尾をぼやかしているのは横綱昇進時のような明文化された基準が特にないため。というわけで単に3場所で33勝を挙げさえすれば大関になれるわけではなく、その相撲内容(取組に勝っても勝ち方に疑問が残るなど)や印象(主なライバルがみんな休場して勝ちやすかったとか、格下の相手にひどい負け方をしたとか)も問われる。昇進に関する審議の対象としては、今後の優勝争いに関わっていく実力が期待できるか、安定して勝ち星を得ているかなど…さらに番付編成上のバランスなども含め、総合的に判断しているらしい。

そんなわけで過去、3場所連続で33勝以上しているにも関わらず大関に昇進できなかった不幸な力士も数多くいる。



## 大関の仕事・役割

### 求められること

優勝争いを演じることや  
2桁勝利の安定した成績

### 相撲界の顔として

横綱・三役と共に協会公式  
行事などに参加する

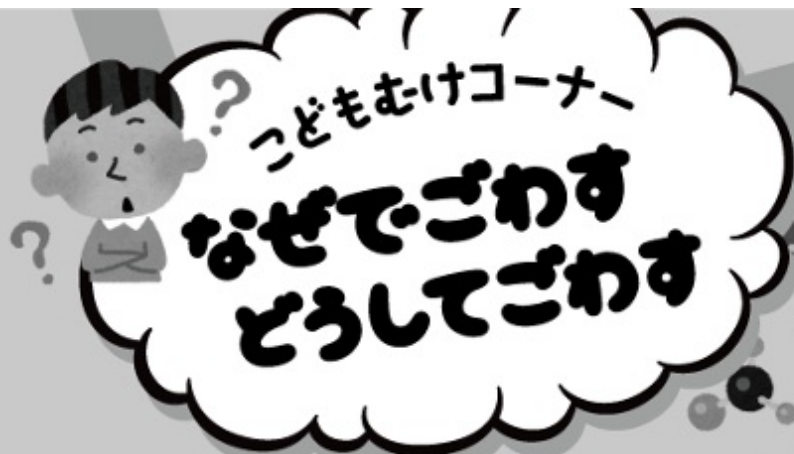
### 時には横綱の代理も

横綱のいない時代には力士  
会の会長を務めることも…

## 角番・陥落・復帰

番付は負け越せば下がるシステムだが、大関の場合は関脇以下の力士とは異なり、**2場所連続の負け越しで大関陥落**となる。負け越した翌場所を「**角番(かどばん)**」と呼び、角番の場所で勝ち越せば「**角番からの脱出**」となる。

大関から陥落しても、その翌場所で10勝以上を挙げればまたすぐに大関に戻ることができる「**大関特例復帰制度**」なるものもある。しかし、これをクリアするのはなかなか難しいようで、今までこの制度によって大関に振り返ることができたのはたったの4人しかいない(特例復帰の10勝を挙げられなかったものの、のちに大関復帰を果たした力士も1人いる)。ちなみに横綱は負け越しても陥落はないが、あまりふがないと引退勧告されることも…



## どうしてちょんまげしてるの？

おすもうさんといえばちょんまげ。でもなぜそんな江戸時代みたいなかっこうをしているのかといえば、それは明治時代のこと。

鎖国が解かれ江戸から明治へと時代が変わり、日本政府は「ちょんまげをやめて好きな髪型にして、刀もささなくていいよ～」というおふれを出し、人々はだんだんと洋風の暮らしへ変わっていった。けれど当時の相撲協会は「我々は伝統を守りたい！」と強く世に訴え、すもう好きだった明治天皇と話を聞いた伊藤博文らの力ぞえで、おすもうさんは昔と変わらずにちょんまげを結い続けることになったわけ。

ちなみに「ちょんまげ」とは普段のおすもうさんがしている髪型のこと、関取がしている例のむっくりとした髪型は「大いちょう」。江戸時代にはほかにもいろんな髪型をしたおすもうさんがいて、女性のように頭にくしをさしたり前髪を作ったり、いろいろアレンジしておしゃれをしていたんだって。



## どうしてはだかんぼうなの？

おすもうはスポーツであり、民衆への娯楽でもあり、神さまに捧げる神事でもあるんだ。そんなわけでおすもうには、神さまに対するいろいろの儀式がある。特に土俵には神さまがおわすと言われており、その土俵の上で闘うおすもうさんたちは神さまに対して武器などはなにも隠し持っていませんよという意味で、はだかんぼうでおすもうをとるんだ。このように神さまへ捧げるためにはだかんぼうで闘うスポーツは、日本だけでなく世界各国にある。



## しきりって スタートライン？

しきりとは土俵の真ん中に引いてある白線のこと。必ずこのへんに両手をついてから立合いをするきまりだ。手をつく位置はしきりの線より後ろであればどこでもOK(前で手をつくのはNG)。立合いのときには両手をついた方がパワーが出るらしいんだけど、しっかりと手をつくことが定められたのは1984年以降。少し昔のおすもうの映像を見ると、申し訳程度にしか手を下ろしていない人も…